

イスタンブール紀行(その2) ボスポラス海峡クルーズ

事務局長 池田良穂

ボスポラス海峡は、黒海とマルマラ海を結ぶ約 30km の海峡で、その西側がヨーロッパ、東側がアジアといわれています。黒海の沿岸には、トルコだけでなく、ブルガリア、ルーマニア、ウクライナ、ロシア、ジョージアがあり、水深は 2000m にも及ぶ大きく深い海です。黒海油田で有名なように、天然資源にも恵まれており、その輸出にはパイプラインだけでなく、タンカーも使われており、大きな船がボスポラス海峡を通過します。

ボスポラス海峡の両岸には、オスマントルコの栄華を感じさせる要塞や宮殿があり、クルーズの見どころとなっています。

一般的なボスポラスクルーズは 1~2 時間程度で海峡の南半分を周遊するものがほとんどですが、毎日 10 時 35 分にエミノニュ埠頭を出発する 6 時間のフルクルーズでは、黒海への入口近くのアナドル・カヴァウの村まで行って、戻るもので、海峡の全体を往復で見ることができます。午前中は西側が順光で綺麗に、そして午後は東側が綺麗に見られます。

途中で点々と町の桟橋に寄りますので、どこでも降りることができ、帰りの便に乗船ができます。アナドル・カヴァウで、船は約 2 時間停泊しており、丘の上の城塞を見学したり、港の近くの魚介類レストランで昼食を楽しんだりできます。

船内に売店があり、パンや飲み物を買うことができます。クルーズの料金は往復で 25 リラ、約 1000 円でした。航海している時間は、片道 1 時間半で、エミノニュ埠頭には夕方 16 時半に戻ってきました。



ボスポラス海峡フルデイクルーズのチケットです。往復 25 リラです。



船は新鋭フェリーの「SH-DURUSU」でした。エネミノニュ埠頭では 100 人以上が乗船し、我先にオープンデッキの席を確保する争奪戦でした。写真は違う日の撮影なので、その様子はお伝えできません。



ブリッジの前の前方の席を確保できましたが、途中で寄港時に進行方向が変わりました。両頭船だったのです。



ボスポラス海峡の南の入口にたつ「乙女の塔」を左手に見て、いよいよボスポラス海峡を北上します。



オープンデッキの様子です。一緒になったのは、中国からの5人組でした。ただし、外国人観光客よりも、地元の乗客の方が圧倒的に多かったです。土曜日だったこともあるかもしれませんが。



宮殿や要塞が次々に姿を現します。



寄港地では、僚船が停泊していることもありました。



様々な貨物船とも遭遇します。



海峡には3つの橋が架かっており、そのうち2つの下を通りました。



最終港のアナドル・カヴァウでは海岸のレストランの店主が大きく手を振って迎えてくれました。まあ、呼び込みですが。



船は、ここで2時間停泊します。



他社の観光船や、プライベート船もやってきて、レストランでの昼食を楽しみます。



海辺のレストラン。魚を選んで調理してもらいます。鯛のバーベキューにしてもらい、ワインでゆっくり楽しみました。前回来た時には梅田会長や日本から行った先生や学生と、ワインを何本もあげた思い出の店でした。



貨物船が壊したらしい建物です。

まだまだご披露したい写真はあるのですが、メールニュースの容量制限があるので、今回はこれで終了です。